|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 授業科目名 | 日本語表現４ | 教員名 | 坂本一信 | 免許・資格との関係 |  |  |
|  |  |
|  |  |
| 授業形態 | 講義 | 担当形態 | 単独 |  |  |
| 科目番号 | JEX4 | 配当年次 | ４年次前期 | 卒業要件 |  | 必修 |
| 単位数 | ２単位 |  |  |  |  |  |
| 科目 |  |
| 各科目に含める必要事項 |  |
| 一般目標 | ・日本語への関心を高め、日本語の特色を理解する。【日本語への関心・理解】・さまざまな表現方法を理解し、自分の考えや心情を表現できる。【表現方法の修得】・自分の生き方や社会との関わりに関心を持ち、よりよい生き方を探求する。【生き方の探求】 |
| 到達目標 | (1)文章を書く際につまずきやすい点を把握し、論理的に構築して書くことができる。(2)話題や題材を生かし、様々な情報を分析することができる。(3)様々な立場や文化の違いを尊重し、論理的に思考することができる。(4)実用的、実務的な表現力を身につける。(5)読書に親しみ、読書の幅を広げ、生き方の探求につなげる。(6)言語文化に対する関心を深め、それらを尊重しつつ、国際人としての視野を広げる。 |
| ディプロマ・ポリシーとの関係 | 本講義は、学科のディプロマ・ポリシーに掲げる「１．クリティカル・シンキング（批判的・分析的思考法）をベースにした高度な思考（比較、分析、総合、評価）能力を身につけている。２．日本文化と外国の諸文化に対する広範な知識とその比較を通して得た、高い異文化理解・受容能力を身につけている。４．日英両語における高度なコミュニケーション能力を身につけている。」を育成する科目として配置している。 |
| 授業の概要 | 現代は価値観が多様化し、言語環境も大きく変化しているが、その中にあって論理的に思考する力、豊かな発想の核となる創造力、その創造力を表現する力が必要不可欠なものとなっている。本講義では、日本語で適切かつ効果的に表現する能力の育成を目指し、言語感覚を磨くとともに、相互評価を通して相互理解をより深めることを目標とする。内容は、論理的に表現するスキルのみでなく、実務的な場面にかなった内容をどのように表現していけばよいかを考察していく。日本語に対するさらなる興味関心を養い、実践的な表現力の育成を目指すとともに、国際人としての幅広い視野を持たせたい。 |
| 履修条件・注意事項 |  |
| 授業計画 | 第１回：授業概要説明　授業の目的、内容、方針、小論文とは何か（目標(1)～(6)）　第２回：小論文講座①意見とは何か（目標(1)(2)(6)）第３回：小論文講座②意見とは何か（目標(1)(2)(6)）第４回：小論文講座③効果的な意見・小論文の書き方（目標(1)(2)(6)）第５回：小論文講座④効果的な意見・小論文の書き方（目標(1)(2)(6)）第６回：小論文講座⑤効果的な意見・小論文の書き方（目標(1)(2)(6)）第７回：小論文講座⑥課題文を小論文に生かす方法（目標(1)(2)(6)）第８回：小論文講座⑦課題文を小論文に生かす方法（目標(1)(2)(6)）第９回：小論文講座⑧課題文を小論文に生かす方法（目標(1)(2)(6)）第10回：小論文講座⑨題材を収集する方法（目標(1)(2)(6)）第11回：小論文講座⑩意見を書く方法（目標(1)(2)(6)）第12回：小論文講座⑪論理的な書き方（目標(1)(2)(3)）第13回：小論文講座⑫論理的な書き方（目標(1)(2)(3)）第14回：小論文講座⑬表現の方法（目標(1)(2)(4)(5)）第15回：小論文講座⑭表現の方法（目標(1)(2)(4)(5)）定期試験：日本語表現に関する小論文 |
| 学生に対する評価 | 定期試験40%、課題・レポート作成30%、発表30%　なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。・コメントを記載して返却する。・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。・答案例を配布する。 |
| 時間外の学習について | 講義における創作課題については、指定された日までに必ず提出するすること。また、発表準備を周到に行うこと。事後学習として課されるレポートを提出すること。 |
| 教材にかかわる情報 | 授業時に、適宜プリントを配布する。 |
| 担当者からのメッセージ | 特になし |
| オフィスアワー | 授業前後の時間。その他、必要に応じて実施する。 |
| 備考 |  |